

国語 第4学年 日本語の数え方について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

日本語の数え方について、紹介したい考えと、それを説明する事例の関係を読む。珍しい数え方の収集だけで終わらず、数える言葉を考えるときに何に着目するかを要約して伝える。単元の終わりに残すのは、数え方の考えの紹介。中心、事例、要約、読んで考えたこと、自分の案と実際の用法の区別を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(1)ウ	ウ 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(2)ア	ア 記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。

単元の目標

考えと理由や事例、全体と中心の関係を理解できる。紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えと理由や事例、全体と中心の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有している。（C(1)ウ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全10時間（読む10）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、知っている数え方と本文の疑問を出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○中心となる考えと事例を整理し、関係を説明する。	知①（語句や内容の整理）
	5 （本 時）	○紹介に残す内容を選び、要約を作る。	思①（発言・学習記録）
	6	○原文と比べ、書き手の考えが変わっていないか確かめる。	学習状況を見て支援する。
	7～8	○要約と自分の考えを伝え合い、事例の選び方を比べる。	学習状況を見て支援する。
	9	○数え方を考える活動を行い、自分の案と確認された用法を分ける。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○事例と中心を関係付けて読んだことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」 【めあて】日本語の数え方について、紹介したい考えと、それを説明する事例の関係を読む。 〈予想される児童の反応〉 ・事例の名前だけでは書き手の考えが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・事例の名前だけでは書き手の考えが伝わらない。 ・物の見方と数え方が関係している。 ・友達の要約は違う事例でも同じ考えを説明している。	考えの文と事例を対応させ、事例を省いても考えが説明できるかを確認する。創作した数え方は自分の案と明示し、慣用的な用法は辞書等で確認する。 想定する難しさ：助数詞の暗記に偏る。自分で考えた数え方を実際に使われている語として断定する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の要約は違う事例でも同じ考えを説明している。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、助数詞の暗記に偏る。自分で考えた数え方を実際に使われている語として断定する。この場合は、考えの文と事例を対応させ、事例を省いても考えが説明できるかを確かめる。創作した数え方は自分の案と明示し、慣用的な用法は辞書等で確認する。 おおむね満足できる状況は、紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 数え方の考えの紹介。中心、事例、要約、読んで考えたこと、自分の案と実際の用法の区別を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_4_202401.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo みえ先生ラボ

